

景観デザイン論

選 択

開講年次：3 年次前期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：景観の概念や種類、評価方法、計画・設計手法に関する基礎的な理解を深め、自然域から都市域にいたる景観の多様性について国内外の事例を通じて学習する。また、人間にとっての景観の意味づけ、日々の暮らしにおける景観との関わりについても学ぶ。

■**到達目標**：①景観デザインに関わる基本的な用語とその意味について理解し、説明することができる。
②景観のデザイン手法と実例について理解し、説明することができる。
③人間によって知覚される景観の意味や価値について理解し、説明することができる。

■**担当教員**：

椎野 亜紀夫

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 履修ガイダンス、景観の概念ととらえ方
- 第 2 回 景観の分類、景観把握モデル
- 第 3 回 景観の分析、評価方法
- 第 4 回 景観の計画・設計
- 第 5 回 景観にかかわる法制度
- 第 6 回 文化財・文化的景観
- 第 7 回 自然景観（山岳、森林、国立公園）
- 第 8 回 田園景観（農村景観、漁村景観、里地・里山）
- 第 9 回 都市景観①（国内の都市景観、街並み）
- 第10回 都市景観②（海外の都市景観、街並み）
- 第11回 都市景観③（緑地、オープンスペース）
- 第12回 街路景観
- 第13回 河川景観
- 第14回 伝統風景、庭園洋式
- 第15回 まとめ

■**教科書**：「景観用語事典（増補改訂版）」篠原修編（彰国社）

■**参考文献**：「人間環境学」日本建築学会編（朝倉書店）、「生態学的視覚論」J・J・ギブソン著（サイエンス社）

■**成績評価基準と方法**：定期試験および小テストにより成績評価します。出席回数が2／3を満たさない場合は単位が認められません。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	授業内容全体から出題する試験により評価	70
小テスト・授業内レポート	◎	○	○	授業内容から出題する小テストにより評価	30
授業態度					
発表					
作品					
出席				2／3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン原論、空間デザイン論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：景観の概念や評価、計画方法に関する基礎について、具体的な事例を紹介しながら学習を進めます。また景観を知覚する人間にとっての、景観の意味や価値についても考察していきます。授業の進め方や評価方法については、第1回の授業で説明します。